

# 子どもの発達における言葉と自己表出

仲野悦子・後藤永子

## Language and self-expression on the development of children

Etsuko Nakano Eiko Gotoh

It is important for workers at nursing stations to have insight into the development of children, especially at their very early life stage, because, in general, the nursing station offers children the first occasion to make continuous communication with non-family members, and it is vital for children to be given practical and efficient opportunities to nourish verbal and physical communication skills with workers' aides.

Therefore, we conducted a study on the development of 30 Children (0 ~ 3y.o.) at S nursing station, by applying Tsumori-Inage methods (filling "Nyuuyouji-seishinhattatsu-shitsumonshi" on their own birthday) and by making weekly observations to describe their development through I to V stages.

Distinct developmental changes in this exercise could be observed. Workers got more and more empathetic in their verbal communication by talking and singing with the children, and communicated more about the language of the children with their parent(s) through memos.

It is most important for nursery teachers not only to understand the developmental stages of children but also to observe children empathetically and try to understand their children's behavior.

Put at the end as an "acknowledgment"

Finally, I would like thank the children at S nursing station from April 2001 to August 2002 and the workers at that station for this study.

Received Oct. 29, 2002

key word; language, development, nursery school

### 1 はじめに

2001（平成13）年の児童福祉法改正により、子育て支援と保育士の専門性が今まで以上に明確になり、保育所の役割は乳幼児に対する保育のみならず仕事と子育ての両立支援及び家

庭における子育て支援が期待されている。

児童福祉法第18条の4に保育士の定義として「登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識および技術をもって、児童の保育及び保護者に対する保育に関する指導を行うことを業務とする者」とされた。これにより保育士資格は児童福祉施設の任用資格から独占資格として改められ、より一層の責任と高度な専門性が求められている。日々の保育に対して保育者のみでなく保護者をも巻き込んだ形で子どもと一緒に見守る。また、保育者の姿勢においても常に研鑽を積み、自分達の保育内容を保護者や地域の子育ての手本となり伝えられるように努力することが大切といえる。このことは、我々保育者養成校としてのカリキュラムの見直しおよび学生の指導内容においても十分考慮するとともに保育現場とのより密接な連携が大切となる。保育実習などを体験することにより、保育の実情や保育者の実際を知ることが保育者養成としてより一層大切となるであろう。

## 2 目 的

人間の新生児は、最初の1年間で立ち、歩き、言葉を使い始める。他の哺乳動物が体内でする発達を人間は社会のなかで行っている。そして、人間は人間社会のなかで育てなければ人間らしい育ち方はできない。動物学者のポルトマン (Portman, A. 1969) はこのような時期を「子宮外の幼少期」といい、人間発達の特性としている。人間の発達には環境の影響が強く作用しており、適当な時期に、適切な躰や教育がなされないと、人間らしく育たないといえる。

そこで、本研究は、平成13年度4月より5年間の研究計画で、子どもが初めて出会う社会として保育園における子ども達の発達、特に言葉と表現を通して子どもの自己表出の発達について明らかにすることを目的とした。

## 3 方 法

### ① 期 間

平成13年4月から平成14年8月までの1年5か月間

### ② 対象園児

各務原市内にあるS保育園における1歳から3歳の誕生日を迎えた園児30名  
(平成13年度1歳の誕生を迎えた園児6名、2歳12名、3歳12名)

### ③ 研究方法

i) 対象園児の生年月日・入園時年齢・入園時月日・家庭環境・特記事項など基礎的資料作成をする。

ii) 津守・稲毛式「乳幼児精神発達質問紙」〈1～12か月まで〉及び〈1～3才まで〉をもとに、誕生日を迎えた園児に対して質問紙を実施し『運動、探索・操作、社会、食事・排泄・生活習慣、理解・言語』の各領域の発達状態を把握し、その発達年齢により発達指数(DQ、developmental quotient)を算出する。素点合計が258を超えてDQが算出できない発達の著しい園児に対しては、3～7歳用の「乳幼児精神発達質問紙」を行う。本来、乳幼児精神発達質問紙は、母親か父親が各領域の質問項目に対して、できる事に○印、できない事に×印、時々できる・最近できるようになった事に△印を記入し、各領域の発達状態を見るものであるが、質問に対して甘く付ける親・厳しく付ける親など記入する親の子どもの把握の仕方が様々であるため、園生活を共にする保育士が記入することにより母親よりもより客観的な評価ができると考えた。また、保育所保育指針にあるように特定の保育士との attachment の重要性が述べられていることから保育士が記入することが最適と考えた。

この方法により子ども一人ひとりの発達年齢により発達指数が算出できる。しかも、どの質問項目ができて、どの質問項目ができないかによって、次の目標とすべき具体的課題が明らかとなり、親に対して努力目標を具体的に連絡帳などを通して示唆することができるとともに、保育士への努力目標にもつながると考えた。

iii) 1週間ごとに子ども達の観察記録を採る。「言葉(言語表現・文章構文・語彙数など)」、「音楽表現(歌遊び・手遊び・楽器遊びなど)」、「その他」の項目に従い通常の保育から子ども達の発達を観察する。その記録をもとに4期(4・5・6月を1期、7・8月を2期、9・10・11・12月を3期、1・2・3月を4期)に区切り成長発達を観察する。(表1参照)

平成13年1月より、「子どもの発達における言葉と自己表出」を園内研究として計画するにあたり保育士との話し合いを何度も持ち、保育士の理解と協力を求めた。

話し合いのなかで、保育士から“子どもに点数をつけること”や“発達指数に左右されること”に対して抵抗を感じるとの意見もあったが、保育士に気づかない面が見えてきたり、個々の子どもの発達上の課題目標につながっていくことを話し理解を得た。また、質問紙の記入に際しては、最初是一緒に記入することにより、保育士への精神的負担を軽減し、慣れていくように配慮した。

#### 4 結 果

##### ① 「乳幼児精神発達質問紙」による発達指数(表2・3参照)

平成13年4月から平成14年8月までの1年5か月の間に1歳の誕生日を迎えた園児6名、2歳15名、3歳18名の発達指数(DQ)は、81から140である。3歳の誕生日を迎えた18名のなかには、No.3やNo.7などのように素点合計が258を超えてDQが算出できない、高い発達が

表1 保育士からみた子ども達の様子

月	言葉 (言語表現・文章構文・語彙数)	音楽表現 (歌遊び・手遊び・楽器遊びなど)	その他
4 5 6	給食の時「マンマンマンマー」と催促する「アバババー」、「バツバツ」喃語が豊か 時々「キャー」と高い声を出すこともある(うれしくて興奮しているみたい) アンパンマンの壁画飾りを指して「アンパンマン」とはっきりという	園庭のからくり時計を見て喜ぶ	新入園児であるがすんなり園生活になじんだ マイペースで情緒も安定していて周りのものとすぐ遊ぶことができる歩行がしっかりしてくる
7 8	アンパンマンが大好きで似ているものは全て「アンパンマン」となる 一人おしゃべりが多くなる		
9 10	単語が増えてきた お茶→ぶんぶ ブランコ→ブーランブーラン 犬→わんわ ヘリコプター→ゴンゴン ゴン ヒコーキ→ブーンブーン		楽しいことがあると「アハハハ」と言って笑ったり、嫌なことは「ア〜」と言って怒る 家庭の保育日誌に言葉が増えてきたとのこと
11 12 1	アンパンマンシリーズの中でてんどんまんのことを「てんどんマン」と答えたりして、ますます単語が増える 食事のときなくなると「おかーわり」と言って催促するようになる。	アンパンマンはとても好きみたいである。それもあつてか体操を張り切ってやるようになる それ以降朝の会の体操では体をよく動かすようになった	マイペースで遊んでいるが、自分のペースを守りたいのか集団行動は苦手(散歩はすぐ手を離して好きな所へ行く)
2 3	空に月が出ていたのを見て「おんぱんは」と言っていることがあったが、絵本「おつきさまこんばんわ」のことを思い出したようだ 果物の名前を言えるようになる お帰りの挨拶も言う「ありがとう→ありゃと」他には、「どいて」「落ちた」「こーぼれた」「おかわり」「お代わりちょうだい」	絵本は好きで真剣に見ている「おつきさまこんばんは」という絵本でクラスでも人気の本 朝の体操は前の方に出て積極的になった	3月半ばのお別れ遠足では、乳母車にも乗らず保育士と手をつないで最後まで歩く

みられた園児が5名もいた。DQが算出できない5名を除いて13名の平均はDQ104であった。1歳時6名の平均はDQ98、2歳時15名の平均はDQ106、3歳時の18名は、素点合計の平均が258.7でDQが算出できなかった。対象園児39名中発達年齢が生活年齢を上回った園児は26名(94%)である。領域ごとに見ていくと、「運動」が14名、「探索」が7名、「社会」が8名、「食事・排泄・生活習慣」が6名、「言語」が5名であり、「運動」領域において高い発達がみられた。また、発達年齢が生活年齢を下回った園児は13名である。領域ごとに見ていくと、「運動」が6名、「探索」が13名、「社会」が15名、「食事・排泄・生活習慣」が14名、「言語」が12名であり、今後の保育の努力目標としてあげられる。

また、1歳と2歳の誕生日を迎えた3名(No25・26・27)(注1)は、1歳時には3名ともDQ92、平均よりやや低い数値が見られた(DQ100が年齢相応とされる)が、2歳時は、そ

子どもの発達における言葉と自己表出

表2 H13年4月からH14年8月までに1歳から3歳の誕生日を迎えた園児

No.	SEX	誕生日	入園月	DQ (素点合計) 1歳時	DQ (素点合計) 2歳時	DQ (素点合計) 3歳時	同胞・特記
1	F	H10.5	H11.8			106 (255.5)	1/1 一人親家庭
2	M	H10.6	H11.9			107 (256.5)	1/3 一人親家庭弟 No.30 H.14.6 第3子出産 (F)
3	F	H10.7	H12.1			(287)	4/4
4	M	H10.8	H11.10			(259)	2/2
5	M	H10.8	H13.3			106 (253.5)	2/2 一人親家庭
6	M	H10.8	H12.3			108 (257)	2/2
7	F	H10.8	H13.4			(300.5)	1/2
8	F	H10.10	H12.5			106 (254)	2/2
9	F	H10.12	H11.4			104 (253)	1/1 一人親家庭
10	M	H11.1	H12.1			104 (253)	1/1
11	F	H11.4	H13.10			106 (254)	1/1 一人親家庭
12	F	H11.4	H13.11			(262)	1/2 一人親家庭妹 No.24
13	F	H11.6	H11.8		94 (215.5)	95 (244)	2/2
14	F	H11.7	H12.8		98 (219.5)	105 (252.5)	2/2
15	M	H11.7	H12.8		81 (100)	102 (249)	2/2
16	M	H11.7	H13.4		94 (215.5)	105 (252.5)	1/2 弟 No.28
17	M	H11.8	H12.9		121 (233.5)	104 (252)	1/1
18	M	H11.8	H12.2		140 (242)	(262)	2/2
19	M	H11.9	H12.4		117 (231.5)		3/3
20	M	H11.9	H12.9		98 (219)		3/3
21	F	H11.10	H12.10		98 (218.5)		2/2
22	F	H12.2	H12.11		98 (220)		2/3
23	M	H12.3	H13.4		90 (211)		2/2
24	F	H12.4	H13.11		113 (229)		2/2 一人親家庭姉 No.12
25	F	H12.5	H12.10	92 (118.5)	108 (227)		2/2 父親留学中
26	F	H12.6	H13.4	92 (112.6)	118 (232)		1/1
27	M	H12.6	H13.4	92 (116)	112 (229)		1/1
28	M	H12.11	H13.4	108 (134)			2/2 兄 No.16
29	M	H12.12	H13.4	83 (102)			2/2
30	M	H13.5	H14.4	121 (151)			2/3 一人親家庭兄 No.2 H14.6 第3子出産 (F)

表3-1

## 園児の素点・発達年齢一覧

(平成13年度)

No.	年齢		素点 合計	運動		探索		社会		食事・排泄 生活習慣		言語	
	生活 習慣	発達 年齢		素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢
	歳	歳・月		歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	歳・月	
1	3	3・2	255.5	70	3	57	3	45.5	2・6	51.5	3	31.5	2・6
2	3	3・2	256.5	69.5	3	58	3	45.5	2・6	51.5	3	32	3
3	3		287	73.5	3・6	67.5	3・6	51.5	3・6	58	3・6	36.5	3・6
4	3		259	68.5	3	58.5	3	47	3	53	3	32	3
5	3	3・1.5	253.5	69	3	57.5	3	46	3	49.5	3	31.5	2・6
6	3	3・3	257	68.5	3	58	3	46	3	52	3	32.5	3
7	3		300.5	75.5	4	71	3・6	54	3・6	61.5	4	38.5	3・6
8	3	3・2	254	68	3	59.5	3	46	3	49	3	31.5	2・6
9	3	3・1.5	252	67.5	2・6	58.5	3	44	2・6	51	3	31	2・6
10	3	3・1.5	253	67.5	2・6	58.5	3	45	2・6	51	3	31	2・6
11	3	3・2	254	69	3	59	3	46	3	48	3	32	3
13	2	1・10.5	215.5	64	2	50	1・9	37.5	1・9	38.5	1・9	25.5	2
14	2	1・11.5	219.5	64.5	2	50	1・9	42.5	2	37	1・9	25.5	2
15	2	1・7.5	200	62.5	1・9	48.5	1・9	37	1・9	30.5	1・9	21.5	1・9
16	2	1・10.5	215.5	63.5	2	50.5	1・9	40.5	2	36.5	1・9	24.5	2
17	2	2・5	233.5	66	2・5	55	2・5	44	2・5	41	2	27.5	2
18	2	2・9.5	242	68.5	3	55.5	2・5	44.5	2・5	41.5	2	32	3
19	2	2・4	231.5	68.5	3	55.5	2・5	38.5	1・9	42	2	27	2
20	2	1・11.5	219	66	2・5	55	2・5	37	1・8	36	1・8	25	2
21	2	1・11.5	218.5	64	2	55	2・5	38.5	1・9	34	1・9	27	2
22	2	1・11.5	220	66	3	55	2・5	39.5	2	35.5	2	24	2
23	2	1・9.5	211	64	2	53	2	31.5	1・5	35.5	2	27	2
24	2	2・3	229	69.5	3	51	1・9	38.5	1・9	43	2・5	27	2
25	1	0・11	118.5	43	1	31.5	0・10	25	1・3	13	0・8	6	0・10
26	1	0・11	112.5	39	0・11	31	0・10	22	0・11	14.5	0・9.5	6	0・10
27	1	0・11	116	40	0・11	33	1・11	21	0・10	15	0・10	7	0・11
28	1	1・1	134	50	1・2	33	0・11	27	1・2	17	1	7	0・11
29	1	0・10	102	39	0・11	26	0・7	20	0・8	12	0・7	5	0・10

注 No.12は表3-2に記載

子どもの発達における言葉と自己表出

表3-2 園児の素点・発達年齢一覧 (平成14年度4月～8月)

No.	年齢		素点 合計	運動		探索		社会		食事・排泄 生活習慣		言語	
	生活 習慣	発達 年齢		素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢	素点	発達 年齢
	歳	歳・月			歳・月		歳・月		歳・月		歳・月		歳・月
12	3		311.5	79.5	5	69	5	57	4	66.5	5	39.5	3・5
13	3	2・10	244	67.5	3	58	3	45	2・5	42.5	2	31	2・6
14	3	3・1.5	252.5	69	3	58.5	3	45	2・5	48	3	32	3
15	3	3・0.5	249	68.5	3	56	2・5	43	2・5	49.5	3	32	3
16	3	3・1.5	252.5	69.5	3	56	3	46	3	49	3	32	3
17	3	3・1.5	252	70	3	57	3	45.5	3	47.5	2・5	32	3
18	3		294	77	4・6	68	3	50	3	59	4	40	3・6
25	2	2・2	227	68	3	51.5	1・8	40	2	38	1・8	29.5	2
26	2	2・4.5	232	69	3	55	1・5	41	2	39	1・8	28	2
27	2	2・3	229	69	3	54	2	41	2	37.5	1・8	27.5	2
30	1	1・2.5	151	50	1・2	42	1・5	29	1・2	18	1・2	12	1
発達年齢が 生活年齢を 上回っている 園児		26		14		7		8		6		5	
発達年齢が 生活年齢を 下回っている 園児		13		6		13		15		14		12	

それぞれDQが108・118・112となり高い発達がみられた。特に「運動」領域において素点が68・69・69となり3歳時相応の発達がみられた。

この結果からも運動領域においては顕著な発達がみられるが、社会、食事・排泄・生活習慣、探索領域においては日頃の保育のなかで保育者の働きかけが大切となるであろう。

②「乳幼児精神発達質問紙」の項目における結果

1～12か月までの対象項目と1～3才までの対象項目についての結果である。それぞれ全員通過できた項目、全員通過できなかった項目を述べる。

i) 1～12か月まで (対象児5名)

- ・全員通過できた項目

- <運動> 1～54質問項目中35項目
  - <探索・操作> 1～39質問項目中25項目
  - <社会> 1～39質問項目中17項目
  - <食事> 1～20質問項目中10項目
  - <理解・言葉> 1～14質問項目中3項目
- ・全員通過できなかった項目
- <運動> 46「比較的大きな物を持って立ち上がる」 (15か月通過)
  - 51「しきいをまたいで歩く」 (15か月通過)
  - 52「しゃがむことができる」 (15か月通過)
  - 53「いすの上に立つ」 (15か月通過)
  - <探索・操作> 33「まりを投げると投げ返す」 (11か月通過)
  - 34「箱・びんなどのふたを開けたり閉めたりする」 (15か月通過)
  - 36「はって行ってふとんの山などをよじ登り乗り越える」 (15か月通過)
  - 38「小さい物を、コップ・びんなどに入れたり出したりして遊ぶ」 (15か月通過)
  - 39「障子やふすまをひとりであけたりしめたりする」 (15か月通過)
  - <社会> 26「買い物カゴを出すと“イコウ イコウ”という」 (15か月通過)
  - <食事> 18「水などをひとりで飲むとってきかない。手伝うと怒る」 (15か月通過)
  - 19「ひとに食べさせて喜ぶ」 (15か月通過)
  - 20「キャラメル・ウエファスなどの紙をむいて食べる」 (15か月通過)
  - <理解・言葉> 3「父や母のことを問うとそちらをみる」 (10か月通過)
  - 9「熱い物を経験したのでその前にくると“アチチ”とってさわらない」 (11か月通過)
  - 11「道具をみただけで模倣的に使用する」 (12か月通過)
  - 13「絵本をみて知っている物の名前をいったりさしたりする」 (15か月通過)
  - 14「簡単ないいつけを理解している」 (15か月通過)

ii) 1～3才まで(対象児23名)



子どもの発達における言葉と自己表出

・全員通過できた項目

<運動>	42～70 (29) 質問項目中18項目
<探索・操作>	35～60 (26) 質問項目中 6項目
<社会>	24～47 (24) 質問項目中 2項目
<食事・排泄・生活習慣>	17～54 (38) 質問項目中 7項目
<理解・言葉>	11～33 (23) 質問項目中 4項目

・全員通過できなかった項目

<理解・言葉>32「“ボク” “ワタシ” などという」	(36か月通過)
-----------------------------	----------

・殆んど通過できなかった項目

<運動>	69「三輪車にのってこぐ」(21名)	(36か月通過)
<探索・操作>56「はさみを使って紙・布を切る」(21名)		(30か月通過)
	59「顔らしい物を書いて目口などを付ける」(22名)	(36か月通過)
<食事・排泄・生活習慣>		
	53「歯をみがく」(21名)	(36か月通過)
	54「ひもの結び目をほどいて着物などをぬぐ」(20名)	(36か月通過)

全員通過できなかった質問項目中には15か月通過や36か月通過などまだ年齢に達していない項目が殆んどであるが、次の質問項目

33「まりを投げると投げ返す」	(11か月通過)
3「父や母のことを問うとそちらをみる」	(10か月通過)
9「熱い物を経験したのでその前にくると“アチチ”と喋ってさわらない」	(11か月通過)
56「はさみを使って紙・布を切る」	(30か月通過)

は、ある程度クリアされていなければならない項目である。<探索・操作>質問項目「まりを投げる・はさみを使う」という経験が日ごろの生活のなかで乏しいためであろうかこのような活動ができていない。また、<理解・言語>質問項目「熱いものなどさわって熱いと思う・触るとやけどをする」ということが日常生活のなかで教えられていない。両親共働きにより0歳児から保育園に入園している。現代社会の中で、親自身も人としての自己実現や意識の変革のなかにある。それにともない子育てに対する感覚の変化のためか親としての関わりが少ない。いずれにおいても子ども達の環境の変化による経験不足がこのような結果を生み出したと思われる。

② 構音の誤り

表5は、S保育園の1歳児から3歳児における構音の誤り例である。(表4・5参照)

2歳台で構音の完成年齢のすり替えや省略された言い方が見られる。例えば、「うさぎ」→「うたぎ」、「ひこうき」→「いとうき」、「とんぼ」→「おんぼ」など構音完成年齢の高い語音が省略されたり発声しやすい両唇音のすり替えが見られる。このような場合、保育者は言葉の獲得過程として認識し、言葉の誤りを直すことよりもゆっくりと正しい構音で話しかけることが最も大切なことであろう。

表4は、90%以上の子どもが単語のなかでそれぞれ音を正しく構音できる年齢を示したものである。表5は、子ども達が日ごろ話している構音の誤り例である。

表4 構音の完成年齢

年 齢	行ごとにまとめた音
2歳台	パ行・バ行、マ行、ヤユヨワン、母音
3歳台	タ行・ダ行、ナ行、ガ行、チャ行
4歳台	カ行・ハ行
5歳台	サ行、ザ行、ラ行

西村辨策・山田光治(参考文献7)

## 5 考 察

### ①アンパンマンコール

子どもの言葉の発達みちすじは、特有のプロセスがある。語音は発声から始まり系統だった語音の獲得にいたる順序だったプロセスをたどる。言語の獲得も、話し言葉を用いない伝達の段階から始まり、1語、2語文、簡単な文、文法発達の段階をたどり、広い範囲の伝達機能をもった多様な言語操作にいたる一定の発達プロセスをたどる。

子どもの初語を発話する平均年齢は、11か月位である。どの国の言語を習得しようと、子どもの初語は限られた一群の音で構成されている。普通は口腔前部の子音 (/b/./t/./d/./m/ など) と母音の組み合わせである。日本語においても同じことが言える。発達には定まった順序がある。もっとも最初に可能になるのはいうまでもなく「あいうえお」の母音である。次に両唇音と呼ばれる「ま」行、「ば」行、「ぱ」行が可能となる。両唇音は上下の口唇が合わさって離れる瞬間に生じる音であり、構音の方法が容易に真似できるのである。子どもが最初に発声する片言は殆んど両唇音の繰り返しから成り立っているといっても過言ではない。一応「マンマ」を除き、その次に出た名詞を始語としてみなすという約束がある。その理由は、「マンマ」は喃語の「マンマンマン」という発声と区別がつきにくいからである。

S保育園の0・1歳クラスのひよこ組で、大好きなアンパンマンコールが起きた。保育士は、アンパンマンの壁画、手遊び、ビデオを日頃よりよく子ども達と楽しんできた。その時の実習生が子ども達の楽しんでいるアンパンマンの登場人物のペープサートを制作し、楽しむ機会があった。これをきっかけにしてより一層アンパンマンに親しんでいった。最初「アンパン」としか言えなかった子どもも皆につられるように「アンパンマン」の言葉が出てきた。この「アンパンマン」という言葉は、最も構音の完成年齢の早い両唇音で全て成り立っている。なかにはNo27の男児のように、11か月のときに「ママ」より早く、始語として「アンパンマン」が出た子どももいた。1歳3か月までに1歳児全員から「アンパンマン」とい

表5 S保育園の構音誤り例

ことば	構音誤り
せんせい	しえんしえ・せんしえ・てんて
さようなら	しゃーら
ありがとう	ありーやと
おかわり	おかーり
うさぎ	うちゃぎ・うたぎ
らいおん	らいよん
ねこ	ねと
ぞう	どう
とんぼ	おんぼ
てんとうむし	てとむし・てんこうむし
だんごむし	ごんごむし
にんじん	にんにん
きゅうり	きゅうい
ぎゅうにゅう	にゅうにゅう
すいか	すいや
しまじろう	ちまじろ
ウルトラマン	うーとらまん
アンパンマン	あんはんまん
えんぴつ	えーぴちゅ
はさみ	はたみ
とけい	とてい
へりこぶたー	ぺんぽぶたー
ひこうき	いとうき
ふね	うね

う言葉を正しい構音で話すことができたこのアンパンマンコールは、楽しく言葉の構音発達を促した良い例だといえる。

②見ることは模倣の学習

S保育園における発達の特徴は「運動」領域において顕著に現れている。対象園児全体においても生活年齢よりも上まわっている園児が多かった。また、1歳と2歳の誕生日を迎えた3名（No25・26・27）は素点が68・69・69となり3歳時としての発達がみられた。このことは、3歳以上児に対して指導されている幼年体育のボール・鉄棒などお兄さんやお姉さん達の動きまわる姿を見ていることによる模倣活動があげられるであろう。保育士たちは、日頃より鉄棒など苦手な園児に対して練習を重ね援助している。このような毎日の活動を小さいながら観察している。斎藤孝は、子どもに伝えたい〈三つの力〉の一つとして「まねる盗む力」をあげ、積極的に食欲な眼でうまい人の技を盗むことの大切さを指摘している。（注2）子ども達は毎日の生活のなかで、小さいながらも敏感に学んでいると思われる。また、S保育園においては、「異年齢のかかわり」として積極的に散歩などを通して近くの山・川へ園外保育に出かけて

いる。同じように1歳児においても園外保育など散歩や遊びを通しての活動は多く取り入れている。これらのことが運動能力を高めた要因であろう。

③「ぼく」・「わたし」の代名詞 代名詞はなぜ使えないのか？

1～3歳までの質問項目、言語・理解の32番の「“ボク” “ワタシ” などという」（36か月通過）質問が全員通過できていない。これは「これ誰の？」と聞いて「ぼくの・わたしの」と答えれば通過する質問である。しかし、子ども達は、「ぼくの・わたしの」と答えず、自分の名前で「ともくんの・みーちゃんの」と言っている。このことは僕・私よりもより一層自分を肯定的に認めてもらうための自己主張であり、自我がより強調されている。

言語は、思考・感情・意思などを表現し伝達するための音声的な記号体系であり、その内容・形態は象徴的な現実の意味を持っている。成長・発達につれて、また、社会的対人関係のなかでコミュニケーション機能は高まり、言葉の基礎が培われる。

## 5 おわりに

平成13年度より1年5か月間にわたり園児の言葉を中心に観察してきた。

人は、大人にしろ子どもにしろ協力しあって育ち生きている。言葉はそのための重要な手段である。しかし人は言葉だけで伝達しているわけではない。伝えたい考えと心持ちを言語の記号を用いて表現し、話し言葉にのせて、表情・しぐさ・視線など話し言葉ではないノンバーバルな信号とともに人に伝える。それを聴いた人は、自分のなかに生まれた意思と感情の反応を行動に移すか、あるいは言語の記号とノンバーバルな信号で反応を表現して送り返す。このやり取りがコミュニケーションといえる。

津守は、乳幼児精神発達質問紙を個々の達成度の総合として指数やグラフから読み取ること以上に、その子どもの存在感・能動性・相互性・自我という視点から、プロフィールを抽出することを大事にする必要性を述べている。そのためには、発達指数、いわゆるDQに頼ることだけではない。最も大切なことは、子どもを観る眼を養っておくことである。保育者が注意深く観察する力を持てば、かなり正確に子どもの状態を把握することができ、単に子どもの発達状態を見当つけるだけでなく、子どもの行動を理解する目を養うことにもなる。

このように最も大切なことは、保育者として子どもをみる眼を養うことである。保育者は単に子どもの発達状態の見当をつけるだけでなく、ノンバーバルな信号を感じ取り注意深く子どもを観察すること、観察する力をつけることによりかなり正確に子どもの状況を把握することができる。約1年半、研究経過のなかで保育士は子ども達の言葉のやり取りや言葉がけに注意をし、表現遊びや歌いかけを多く持った。また、連絡帳などを通して保護者のとの言葉に関する話題も多く出てきた。このような毎日の保育の取り組みは、保育者自身にとって子どもを観察し子どもの心を読み取る力が育った。保育者は子どもの行動を理解する目を養うことが最も大切であることを改めて認識した。

## 注

- 1 家庭環境としては3人とも核家族である。No25は2歳年上の兄があり、同じように保育園に在園している。平成14年4月より2年間の予定で父親が留学しており、現在母子で生活している。誕生時3,360g（母乳）で、始歩1歳、始語6か月、母親は公務員である。No26及びNo27はともに一人っ子である。No26は誕生時2,990g（母乳）で、始歩1歳、始語1歳、両親とも公務員である。No27は誕生時3,612g（母乳）で、始歩1歳1か月、始語10か月、父親が会社員・母親は病院勤務である。

- 2 子どもに伝えたい力の基本は<コメント力> (要約力・質問力を含む) <段取り力><まねる盗む力>の3つの力をコンセプトとして上げている。「まねる盗む力」として積極的に貪欲な目でうまい人の技を盗む積極的な学ぶ姿勢、「段取り力」は周りの動きを予測しながら自分の動きを段取る。いろいろな行動に対しての組み立てを考える姿勢、<コメント力・要約力・質問力>はコミュニケーション能力の具体的な内実としてあげている。そして「この3つの力は生きる力そのものである」と述べている。

#### 参考文献

- 1 全国保育団体連合会・保育研究所編 『保育白書2002』 草土文化 2002
- 2 若林慎一郎著 精神科選書6 『子供をどう診るか』 診療新書 1986
- 3 津守真・稲毛教子 『乳幼児精神発達質問紙1～12か月まで』 大日本図書株式会社 1961
- 4 津守真・稲毛教子 『乳幼児精神発達質問紙1～3才まで』 大日本図書株式会社 1961
- 5 津守真・磯辺景子 『乳幼児精神発達質問紙3～7才まで』 大日本図書株式会社 1961
- 6 津守真・稲毛教子著 『増補乳幼児精神発達診断法0～3才まで』 大日本図書株式会社 1995
- 7 村上氏広・村地俊二編 『新生児・小児の発達診断マニュアル』 医歯薬出版 1982
- 8 村田孝次著 『幼児のことばと発音<その発達と発達障害>』 培風館 1970
- 9 若林慎一郎編 保育講座23巻『精神保健』 ミネルヴァ書房 1990
- 10 若林慎一郎・本城秀次編 保育・看護・福祉プリマーズ9 『精神保健』 ミネルヴァ書房 1990
- 11 斉藤孝著 『子どもに伝えたい<三つの力>』 日本放送出版協会 2001
- 12 大場幸夫・柴崎正行編 『障害児保育』 ミネルヴァ書房 2001

#### 付 記

本稿は平成13年度岐阜聖徳学園大学短期大学部研究助成による研究成果報告である。

この研究にあたりS保育園の保育士の協力を感謝を致します。また長年わたり実践研究させて頂き、指導・助言をいただいたS保育園の理事長先生が永眠されました。ここに感謝を申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。